

# 【さどひまわりネットの挑戦（佐渡市）】

## 課題（状況）

- ・医師・看護師等の不足、医療の危機
- ・要介護・要医療の増加と病態複雑化
- ・機能分担・専門化による連携の必要（施設間のコミュニケーションの不足）
- ・困難を極める在宅診療

## 目標

- ・医療・介護の提供体制の維持・向上
- ー施設間での情報共有・参照が可能
- ①情報の提供・参照が双方向で可能
- ②少ない業務負担・コスト負担
- ③利用される（多くの参加、10年継続）

## 具体的取組

- ①地域医療再生計画(新潟県)策定 -22年
- ・推進協議会立上げ準備等 -22年
- ・佐渡地域医療推進協議会立上げ、ネットワークシステムの機能・仕様等の設計-23年
- ・医科/歯科/薬局間連携システム開発-24年
- ・さどひまわりネット稼働、介護/在宅連携システムの開発、健診情報連携 -25年
- ・26年4月 さどひまわりネット本格運用
- ③システム設計・開発： 約16億円(基金)
- 運用： 約36百万円(施設の利用料)
- ⑤NPO法人「佐渡地域医療推進協議会」
- ーネットワークシステム検討委員会（主導）
- ⑥少ない施設負担(費用・業務負担)での情報共有ー既存の機器からデータを自動収集
- ・佐渡総合病院佐藤副院長のリーダーシップ

・住民のレセプト情報等が高いセキュリティでかつ収集目的・開示範囲が明確

## 規制

・佐渡島内の施設を開示範囲とし、施設では厳しく情報保護

## 解決

## 佐渡市プロジェクト

- ①プログラム（行動）
- ②スケジュール
- ③予算
- ④専門人材
- ⑤推進・運用組織
- ⑥成功要件

地域資源  
人材

支援政策  
協力者

産学連携・  
技術

・設計実施のコンサル  
タント/開発ベンダー  
(日本ユニシス株)

- ・佐渡地域医療推進協議会（病院・医師会、歯科医師会、薬剤師会、佐渡市、新潟県ー保健所で構成）を設置
- ・佐渡総合病院副院長 佐藤医師が主導

## 結果（数値）

- ・情報共有により患者への提供医療等が向上
- ・病院と診療所の検査・投薬情報が共有され、かかりつけ医での治療継続が可能
- ・重複した検査・投薬や禁忌の薬剤投与がない
- ・医療情報を参照して適切な介護計画・日常生活動作の改善などQOLの維持が可能

## 地域の変化

- ・医療・介護施設間の連携により病院ではリハビリ等の介護プランが把握でき、長期的な治療を立て易い、介護施設では医療情報が判って安心等の双方にメリットがある。
- ・医療情報の提供に同意する住民が増加

## 残る課題

- ・健診データの連携等により各年代の情報が得られれば地域の特性分析や計画等への活用が可能。
- ・知名度向上と運用体制の整備、他への展開

## 次の行動

- ・佐渡市の支援を得て参加をし、佐渡の疾患・要介護度の分析、医療・介護計画への利用等エビデンスを持った計画策定が可能
- ・議会/団体等の視察を受入れ、知名度向上に活かす